

しては、もちろん、いいところだけしか映してないかもしれないけど、私にはよく見えましたね。その方は、全国でキャンペーンをしてらっしゃいます。「こんな不幸な子たちを作ってしまったのは、あなたの責任なんです」というキャッチフレーズを書いて、バスに動物を乗せて、キャラバン隊でやってるんです。オリバー あの方と奥さんと、親戚とボランティアです。五、六人ではそんなに世話ができませんと思います。

甲斐 彼も安楽死は反対なんです。

編集部 安楽死をさせないためにはどうすればいいか、ということが出ない限りは、どうしようもないですね。

甲斐 私もそう思います。安易に安楽死というのであれば、それはおかしい話だと私は思います。だから、仮に保護した方が、一二〇%気合を入れてこの子にかかれば、何とかなってきました。それをしないで、かわいそうだから殺してしまえ、そうすれば目障りにもならないという感覚で安楽死をさせるなら、それは福祉ではないという気がします。私の個人的な考え方ですけど。

オリバー 私は、ケース・バイ・ケースです

ね。以前、十年以上も飼って、どうしても飼えなくなったといつて、ここへ犬を連れて来た場合がありました。ものすごく泣いて、泣いて、寂しがった。死ぬまで寂しいというのは意味がないと思います。まだ若い犬は慣れるからいいけど……。

編集部 忠犬ハチ公の物語がありますけど、飼い主が代わったんじゃ、この子には安らぎがないんだと。生きて健康であつても、心の安らぎはないということですね。

編集部 そういうときは、どうされるんですか。

オリバー 安楽死を選びます。

編集部 かわいがられていた犬ほど、飼い主が代わると慣れないんですね。

オリバー そうです。それと、保護するといつても、網のただけで飼って、一日も散歩させない。そういう飼いは意味ないと思います。甲斐 私は、オリバーさんとは考え方はちよつと違つて、安楽死はしなないです。ここほど数は多くないので、まだやっていけますけど、もし増えれば、増えただけやっていけるようなことを考えなきゃいけないと思つてます。

編集部 オリバー先生は、どちらかというと、犬の心の精神状態に特にウェイトを置かれるわけですか。

オリバー そうですね。

編集部 そのお気持ちもわかります。犬によつて、性格はみんな違いますからね。

編集部 ここに連れてこられた犬で、ここで飼える、飼えないという判断基準は、どういうふうになりますか？

オリバー みんな保護したいけど、それはできない。きりがいいからね。一番かわいそうなケースは、断るときですね。

編集部 この一匹を飼わなかったら、十匹の世話ができるのに、というお考えもあるでしょう？

編集部 一つの柵に、何匹ぐらい入れてるんですか。

オリバー せいぜい二匹です。

編集部 じゃあ、小屋は三十ぐらい。

オリバー そうです。

編集部 こういうことをやられている方は、先生の周辺で何人ぐらいおられますか。

甲斐 私の近くで、かなりお年の方でやっていらっしゃる方がいます。それと、能勢とい